

fff サンフレンズだより

理事長 大友信勝より
新春のごあいさつ

No. 59 2011. 1. 21
発行：社会福祉法人 サンフレンズ
編集：法人本部 事務局
〒167-0023
杉並区上井草3-33-10
03-3394-9833



サンフレンズの決意

2010年夏、法人職員の「入居者の預り金」「家族からの寄附金」着服事件から半年が経過しようとしています。このことにつきましては、実態把握および関係先への報告・謝罪、対応策を図るとともに、抜本的な改善策の検討を行いました。法人の管理・運営のあり方、チームワークや連携等、点検・助言できるシステムの見直し、さらには職員倫理・規律の再確立等が協議され、実行に移されてきています。

サンフレンズの原点は「市民の目線で、安心して住みなれた地域でその人らしく尊厳をもって暮らせる地域社会の創造」にあります。全役職・職員が改めてこの原点からサンフレンズの再生と発展への方向を掴み直すために12月5日、職員勉強会を開催しました。報告者は白川すみ子氏（新しいホームをつくる会）、河周子氏（杉並・老後を良くする会）、岡本波津子氏（元友愛の灯協会）の3名であり、職員にサンフレンズ創設への市民の期待、関係者の努力、行政のバックアップ等を語り、今のサンフレンズに何を望むかを訴えました。

サンフレンズは今後、このような企画を開かれた形で開催していかなければならないと思っています。今回のことを教訓にして、もう一回り発展した姿を皆様におみせすることが法人の使命であり、皆様もそのように望んでいるものと思っています。この期待に応える2011年にしていかなければと決意を新たにしています。

しかし、介護を取り巻く状況は厳しく、「2020年」、つまり団塊の世代が後期高齢者になると、高齢化率は30%を超えます。家族の介護力はどうか。家族が「孤族」化の傾向をみせ始め、「ひと



り暮らし」が増えています。

介護保険においては、介護給付の見直しが2012年度にあります。国（公費）による一般会計からの支出がなければ、現行の給付水準は維持できなくなっています。しかし、「財源」問題から保険料、一部負担、ケアプラン作成費、軽度の対象者や生活支援をどうするか、等の課題が検討されており、「細るサービス」にならないかどうかの不安を生み出しています。介護報酬もこの10年間、4.7%の減額ののち、3%の増、つまり、2000年度水準をまだ回復していません。制度の維持・継続性のもとに、施設運営は非正規職員で対応せざるをえない状況が作られてきました。

サンフレンズは、今こそ原点に立ち、法人として何ができるか、何をしなければならないかを事業計画にうたい、実現に向けて努力していきます。法人としての地域政策をもち、利用者・家族の声や意見、市民ニーズを掘り起こし、事業へ反映していくつもりです。

サンフレンズがめざす方向は、利用者サービスの向上と安心して暮らせる地域づくりを行うことです。いつも市民の要望や期待に応えられる法人運営をめざしますので、本年も宜しくお願い致します。

2011年 飛躍の年にしたいピヨン

日頃サンフレンズの施設・在宅介護サービスをご利用いただいている、
卯年生まれの“年男”“年女”の皆様をご紹介します。

<戸根 眞砂子様 永福ふれあいの家>



永福ふれあいの家に 2000 年の開設当時から通ってくださる戸根さん。穏やかでいつも優しい笑顔を見せてくださいます。私たち職員も戸根さんの笑顔からパワーをもらっています。これからもお元気でお通いください。

<野中 圭子様 和泉ふれあいの家>



昭和 2 年 11 月 11 日生まれ。誕生日に因んで、十・一・十・一と書いて圭。絵手紙、俳句、書道、そして音楽……。何事にも関心を持ち、一生懸命に取り組む元気な姉さんです。

<岡田 昭子様 上井草園>



岡田さんが毎日弾いているピアノの優しい音色は、フロアのあちらこちらに聴こえてきます。ピアノの音色は弾く方のお人柄を表すかのようです。2011 年は「もっとピアノを弾いたり、庭で絵を描きたい」と仰っていました。

<井崎 きよ様 和田ふれあいの家>



いつも穏やかな笑顔の井崎さんは、お得意の英語で朝のあいさつも“Good morning”です。読書がご趣味で、新聞を熱心に読まれています。健康の秘訣は「あせらずのんびりすることかしら。」とのこと。

今年も素敵な笑顔が溢れますように。



<若狭 美智子様 訪問介護センター>



声が若々しく事務所でも評判の若狭さん。七十過ぎまで商社・金融関係でバリバリ働き、趣味は書道、華道、カラオケ。『二人酒』『夫婦坂』は十八番。毎朝の発声練習は欠かさないそうで、今年こそ手話、俳句を習いたいと至って前向きです。

<田中 賀子様 上井草ふれあいの家>



元気の秘訣は、毎日の体操とストレッチ、そして食事は良く噛むことだそうです。「人に喜んでもらえることが好き。」と話される田中さんは、いつも輝いています。

<川村 昭子様 サンフレンズ善福寺>



6歳から日本舞踊を習い、若い頃からスポーツ万能、お料理上手でおしゃれなスーパーレディの川村さん。昔から愛称は「アッコ」さんです。その優しいまなざしで、周りにいる人をいつも和ませ、ほっとさせてくださる方です。

<石井 鏡平様 松ノ木ふれあいの家>



いつも松ノ木ふれあいの家にニコニコ笑顔と元気を届けてくださる石井さん。ムードメーカーで、ゲームを盛り上げてくださいます。そして、運動神経抜群!!優しい素敵な笑顔の色男です。

第1回勉強会“サン婆（ばば）”と語ろう会 …福祉への思いを実現するために…

昨年12月5日、サンフレンズの創設に深く関わる NPO 法人新しいホームをつくる会理事の白川すみ子さん、杉並・老後を良くする会運営委員の河周子さん、元友愛の灯協会専務理事の岡本波津子さんを招き「“サン婆（ばば）”と語ろう会」と題し、サンフレンズ上井草で勉強会を開催しました。



＜左：河さん、中央：白川さん、右：岡本さん＞

開会に際し、司会の藤山邦子から介護保険制度開始から10年がたった今、原点に戻って足元を見つめ直す時期だと挨拶がありました。

1. 3人の創設者からのお話

まず、白川さんは、杉並・老後を良くする会の発足の思いと小規模多目的施設の実現に向けて話しました。地域福祉の基盤となる在り方を目指す小規模多目的施設は現在も実現していないけれど、そういう仕組みがあれば、安心して住みなれた地域で人生を全うできるのではないかと語りました。また、誰のための福祉か何のためのサービスかを問い続け、常にご利用者や家族の立場に立って運動を続けた結果、今日があると話しました。

次に、河さんは、1972年に発足した杉並・老後を良くする会は自然発生的なボランティアから始まり、また活動の中でそれぞれが悩んでいることを持ち寄って、それを共有し意見を出し合うことで、問題解決への道が拓けてきたと話しました。地域の実態と経験をもとに運動を積み重ね、自分たちだけではどうにもならない問題を行政などに訴えていくことで、デイケアや配食サービス、訪問介護などが制度化されたとも話しました。

最後に、岡本さんは、市民運動体である F.F.S（福祉フォーラム杉並）の活動について話しまし

た。F.F.Sは、杉並の様々な高齢者福祉団体が手を結べば大きな力になるのではないかとという提案から始まったと語りました。現在サンフレンズもそのメンバーであり、それ故、サンフレンズの職員も市民運動を行っていると言えること、また、実際にご利用者や家族と接する職員が、一人ひとりの気持ちの代弁者として、その声を国や自治体に届くよう運動に結び付けて欲しいと話しました。



＜アットホームな雰囲気勉強会＞

2. “サン婆（ばば）”と職員との意見交換

意見交換では、運動と活動の違いについて質問がありました。河さんは、活動は、ボランティアなど何をどうするか決まっていなくて自発的に動き続けることであり、運動は、物事を変えていくのに何が必要でどうすればよいかを真剣に考えつつ、現場の課題を行政に伝えていくことと答えました。白川さんは、小規模多目的施設実現への取組みや杉並・老後を良くする会、友愛の灯協会、新しいホームをつくる会の歴史に触れ、運動とは、例え蟻螂の斧であっても隆車に立ち向かうことと答えました。そして、岡本さんは、世直しの基本は運動であると答えました。

その他にも、ご利用者家族から、職員が生き生きと働ける環境になるよう行政に要望して欲しいという声が出ました。また、サンフレンズの職員として誇りが持てたという感想もありました。

最後に理事長の大友信勝より、高い志と使命感を持って活動してきた人々の思いがこの法人を支えていること、地域・福祉サービスをつくる上ではご利用者や家族と手を合わせて考えていくことが大切であると挨拶し、会を締め括りました。

サンフレンズ リレーコラム

今回は居宅介護支援センター統括所長の吉田直子から、ケアマネジメントとその担い手であるケアマネジャーのあり方について、また、地域づくりについて日頃感じていることをお届けします。

ご利用者・家族に寄り添う ケアマネジメント

ケアマネジメントには、①ご利用者の現状を総合的にアセスメント（評価）したケアプランの吟味、②ご利用者・家族・主治医・サービス提供者・その他のケアチームのコーディネート、③介護保険の管理・推進（番人としての役割）、④ご利用者や現場の声を代弁し政策等へ反映する（アドボカシー）という4つの専門的機能があります。このケアマネジメントの担い手が、地域の居宅介護支援事業所にいるケアマネジャーです。

昨年度、サンフレンズの居宅介護支援サービスに関する「利用者満足度アンケート」を実施しました。ケアプランを立てる上で「これからどのような生活をしたかが明らかになりましたか。」の問いに「満足」「ほぼ満足」は78%、「不満」「やや不満」は5.1%という結果でした。

ケアマネジャーは専門職として、ご利用者や家族の思いはどこにあるのか、ご利用者が在宅で生活を継続していくためには何が必要なのか、そして、今後の生活についての希望を、様々な情報の中から引き出します。その上で、近い将来予想される変化と対応についての不安も共有します。「安心して生活が継続できるように、できる限りサポートしていきます。一緒に考えていきましょう。」と、ご利用者や家族の思いに寄り添いながらケアマネジャーの姿勢を伝えることを心がけています。

アンケート結果は、ご利用者や家族の思いに寄り添っているかどうかの指標とも言えます。

人と人が繋がる地域づくり

ある一人暮らしのご利用者は、様子を見に来てくれる昔からの友人たちと、毎日お茶を飲んでお喋りを楽しんでいました。訪問介護サービスが開始となり、清潔な環境や栄養のある食事が提供されるようになりましたが、昔からの友人たちは遠慮をして来なくなりました。次第にご利用者からは笑顔が減りました。

ケアマネジャーは、地域住民がご利用者のサポートに参加できるよう働きかけをします。しかし、専門職のサポートが入ることで、ご利用者と家族が地域の中で特別な存在となり、今までの地域住民との関係が継続できなくなることがよくあります。

ご利用者、家族を支えるためには、公的サービスにより環境整備がされることは大切ですが、それだけでは足りません。ご利用者も家族も人々との繋がりの中で生きています。信頼できる人との関係の中で自分の存在を確認し、それが「生きる力」となります。自然に心配してくれたり、助けてくれる人がいる地域が、「安心して生活できる地域」です。

生活の困りごとは、いつでも、誰にでも起こりうることです。昔ほどの地域にもあったように、隣の家の雨戸が開かない日には、声をかけられるような関係づくりを進めていきたいと思います。地域づくりをすることは、人づくりをすることです。そのためにサンフレンズは何ができるのかを地域住民と一緒に考えていきたいと思っています。

情報コーナー……………介護保険制度の見直しに向けて……………

社会保障審議会介護保険部会では「介護保険制度見直しに関する意見」を取りまとめ、平成22年11月30日に発表しました。現在、ケアプラン作成などの居宅介護支援費は利用者負担0円ですが、改正案では利用者負担を導入することが提案されています。これに対し、必要なサービスの利用抑制につながるという、利用者や事業者への影響を危惧する反対意見が出されています。その他審議会の内容など、詳細は厚生労働省ホームページに掲載されています（<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000xkzs.html>）。

法人への寄附金および物品等を賜り、厚く御礼を申し上げます。

2010年11月1日から12月31日までにご寄附をいただいた順に掲載しております。

《寄附金》立教女学院高等学校 GFS 様・大場文子様・福田東吾様・宮本正勝様・財団法人熊崎報恩財団様・松島四郎様・山田達美様・白梅学園短期大学様・井垣節子様・坂東美知子様・岩下淳子様・加藤恭子様・吉田啓造様・吉田孝仁様・匿名希望3名（寄附金のお預り後、2週間以内に本部事務局より領収書を郵送いたします。届かない場合はお手数ですが、本部事務局までご連絡をお願いいたします。）

《物品等》結城千寿様・岩松彰様・安川金一様・新井紀美代様・福原彰様・森三枝子様・山田達美様・宍倉八重子様・松尾廣高様・東京善意銀行様・渡辺恵子様・伊藤節子様・篠原義明様・田野辺満様・横尾和暁様
匿名希望11名

ボランティア紹介 第45回

さりげなく寄り添うように



<内助の功が光る山脇安子さん>

今回は、松ノ木ふれあいの家で毎週月曜日、主に傾聴ボランティアとして活動されている山脇安子さんを紹介します。

私たちとの出会いは、10年前、他区のデイに通うお母様がいつも楽しく帰って来ることから、デイではどんなことをして過ごしているのだろうと興味を持ったことがきっかけです。近所の松ノ木ふれあいの家に見学に来た際、当時の所長に「私でもお手伝いできることがあれば」と声をかけてくださり、以来、今日まで継続してボランティア活動をしてくださっています。

月曜日のご利用者も山脇さんが来るのを心待ちにしています。静かに話し相手をされていますが、話したいことを話して欲しいとの思いで接しているとのこと。ご利用者から、「話を聴いてもらって良かった。」と言われることがとてもうれしいそうです。

傾聴ボランティア以外にも、プログラム補助な

どもします。プログラム補助はいつも自然でさりげなく、地味なところを内助の功で助けてくれます。時にはご趣味の押し花を活かして、はがき作りやうちわ作りの講師も担います。

ボランティア活動を通じて良かったことは、「いろいろな方のいろいろな生活の形があるということを知ったこと、自分の将来も考えるようになったこと、そして、何よりご利用者からたくさん思いやりの心もらったこと。」だそうです。

山脇さんをご自分の介護体験から、介護は技術だけではなく気持ちもなければとおっしゃいます。

このめぐりあいをこれからも大切にしていきたいと思います。



<歌合戦で歌詞カードを支える山脇さん>

サンフレンズだより・ホームページへのご意見・ご感想をお寄せください

本部事務局 電話 : 03(3394)9833

FAX : 03(3394)9834

担当 : 水之江・眞田

ホームページアドレス

<http://www.3friends.or.jp>

E-mail アドレス

kamiigusa@3friends.or.jp